

# 国際交流会館設立20周年記念シンポジウム

## 「未来への挑戦」基調講演(報告)

9月1日（月）、会館7階ホールで、記念シンポジウムを開催、120名に参加いただきました。日々進展する地域のグローバル化の中で、「熊本に暮らす私たちは如何に国際化に立ち向かえばよいか」について考える機会となりました。



### 熊本には多くの「宝」がある

講演者は、長岡市国際交流センター長 羽賀友信（はがともゆき）氏、国際協力という視点から地域づくり・人づくりを実践されている。

熊本には熊本城や地下水はじめ多くの宝物があるが地元は素晴らしさに気づいていない、もっと世界の人たちと交流し、地域のことを海外へ発信していくことで熊本の国際化が促進される。同時に、地域のこと・自身のことが説明できる人の育成が重要になると提言されました。このためには、文化背景の異なる人を納得させるファシリテーション能力と自らの考えを明確に表現できるプレゼンテーション能力を兼ね備えたコミュニケーション力の育成と地域内では様々な偏見を取り除いていくことが重要です。



### 若い世代の人づくり ～考える教育～

国際化に対応できる人の育成で最も重要な対象は若い世代です。多様な会話をとおし学び合える場を作り、「考える教育」へシフトし、質を高めていかなければなりません。また、情報を鵜呑みにしない、インターネットでの検索だけではないクリティカルシンキングができる人づくりが重要となります。

### 友好姉妹都市の出口戦略は経済交流

昨年（2013年）、米国サンアントニオ市で姉妹都市環太平洋フォーラムが開催され、多くの参加者が集まっていた分科会があり、テーマは経済交流でした。日本の友好姉妹都市交流は青少年交流が主流ですが、既に世界の友好姉妹都市交流は経済交流を見据えています。交流の継続性を確実にするには民と民の関係強化、経費を民間活力から捻出していくことが理想と言えます。入り口の青少年交流から人が育ち、若い起業家同士の交流、さらに企業間交流とつながっていくことで、友好姉妹都市交流は、双方地域の活性化と発展になることでしょう。

### 未来への挑戦

地域のコアとなる人を含めた資源が大事にされながら、コミュニケーション、人づくり、経済交流というキーワードが実践されることで地域は活性化、発展していきます。そして、世界の人たちとつながり、世界へ発信される時、地域の国際化が動き始めます。地域は人にとって誇りとなり、また、新たな挑戦が生まれてくるでしょう。

当事業団及び会館は、熊本市の国際化の拠点として、これからもインターローカルに事業を展開し、地域の国際化に貢献していきます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。